

【研究課題名】：免疫抑制作用を有する医薬品投与時の肝機能検査状況調査

【背景と目的】

免疫抑制剤、抗悪性腫瘍剤、抗リウマチ剤をB型肝炎ウイルス感染のある患者に投与した場合、B型肝炎ウイルスの再活性化があらわれることがあることから、肝機能検査値や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行うよう注意喚起されています。さらに、C型肝炎ウイルスキャリアの患者においても、免疫抑制作用を有する薬剤の投与後にC型肝炎が悪化することも報告されています。そこで、愛媛大学医学部附属病院（以下、当院）における「免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン」に従った検査の実施状況と肝炎発症の実態、および慢性B型肝炎治療薬であるエンテカビルの処方状況、加えてHCV抗体、C型肝炎ウイルスキャリアにおける肝機能検査のモニタリング状況を調査し、免疫抑制作用を有する薬剤を安全に投与できる体制を整えることを目指します。

【研究意義】

B型、C型肝炎ウイルスキャリアにおける現状を調査することで、免疫抑制作用を有する薬剤をより安全に投与できることが期待されます。

【調査内容】

2013年4月から2014年3月までの間に当院で免疫抑制剤・抗悪性腫瘍剤・抗リウマチ剤の投与を受けた患者を対象とします。投与後6ヶ月間肝機能検査のモニタリング状況を調査します。

調査項目：年齢、性別、身長、体重、「免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン」に従った検査の実施状況と肝炎発症の実態、および慢性B型肝炎治療薬であるエンテカビルの処方状況、HCV抗体、C型肝炎ウイルスキャリアにおける肝機能検査のモニタリング状況

【実施期間】

2014年9月～2015年8月の1カ年を予定しています。

【患者さんの個人情報の管理について】

厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの不利益となることはありません。

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

教授 荒木 博陽

講師 田中 亮裕

副部長 田中 守

薬剤師 宍野 友紀

薬剤師 岩村 陽子

【研究結果】

特に、抗がん剤投与時に B 型肝炎の有無を薬剤師が確認する体制を整えました。